

T-26番 要約

(平成26年9月現在)

1 被害者

平成10年12月生。接種時中学1年生（13歳）、現在15歳。埼玉県在住。

2 ワクチン接種前の健康状態等

健康。朝5時半に起床し6時10分には家を出て登校。通学時間は片道1時間半。部活の練習を終えて、帰宅は夜7～8時。入通院歴は風邪くらいで特に既往症もなし。

3 接種

サーバリックス3回（平成23年9月15日、同年10月18日、平成24年3月17日）

4 経過概要

平成23年9月 中学校（私立女子校）の入学後懇談会で接種を勧められ、公費助成期限の9月に1回目接種。接種後1～2週間腕が腫れ、腕が上がらない。

平成24年3月末 3回目接種後2、3週間で、倦怠感、すぐ寝るなどの異常現れる。

4月 体調異変（肩首の痛み、頭痛、倦怠感、手足に力が入らない、手足の震え）。血液・CT検査では異常なし。4月は学校をほとんど欠席。

5月～ 登校。人と関わるのが鬱陶しく感じる。気力低下。

平成25年4月 中3からは人混みが辛く、時間をずらし登下校。保健室登校。頸部疼痛、頭痛のほか、痙攣、過呼吸、視力低下、生理痛悪化。

秋頃～ 記憶障害、計算障害、読書も困難。関節痛、足に力が入らない。

12月 子宮頸がんワクチン接種後高次脳機能障害の診断

平成26年1月～ 歩行障害。体の痛みとだるさで朝起きられず、殆ど登校できない。

3月 入院しステロイドパルス治療を受けるが激痛のため1クールで中止。

5 これまでに発症した主な症状

関節痛、移動する痛み、頭痛、頸部痛、だるさ、痙攣、動悸、過呼吸、運動麻痺（足に力が入らない）、感覚麻痺、握力低下、脱力、生理痛悪化、耳鳴り、音・光に過敏（羞明）、視力低下、歩行障害、高次脳機能障害等

6 受診医療機関

6医療機関（小児科、心療内科、ペインクリニック、精神・神経科、てんかん専門病院、整骨院）

7 現在の生活状況

学校至近に部屋を借りて、平日は父と生活し、電動車椅子で通学。体調により休みがち。午後からの登校の場合もある。

8 救済制度の申請 申請していない

1 はじめに

私は、現在高校1年生で、中学1年生の時にサーバリックスを3回接種しました。今までとても健康で、家から片道1時間半かかる学校へ通うため、早朝に起きて登校し、学校では毎日部活動をして、夜7～8時などに帰宅する生活だったのに、3回目の接種を受けた2、3週間後から、全身のだるさ、肩や首の痛み、頭痛など体に異常が現れ始め、具合が悪くて、学校に行けなくなりました。現在では、歩くのが難しくなり、車いすで生活しています。

身体の症状だけではなく、朝食べた物や昨日何をしたかを思い出せなくなったり、以前はすぐにできた二桁の計算ができなくなったりもしています。本を読んでも内容が頭に入っていないので、大好きだった読書ができなくなりました。

接種してから今までの症状や、生活の状況について、以下に述べたいと思います。

2 ワクチン接種前の健康状態

私は、小さい頃から入院を要するような大きな病気は経験したことはなく、アレルギーを指摘されたこともなく、健康に問題はありませんでした。

あえていえば、風邪を引きやすく、近くの病院にはよくかかっていたのですが、小学校6年生で中学受験をするときには、塾にも通っていましたし、夜遅くまで勉強をして、受験を無事クリアしました。私立の中高一貫校に入学してからは、毎日早朝に起きて片道1時間半かけて通学していました。電車の中では本を読み、駅から学校までは、15分の道のりを歩いて通学し、放課後は部活で、帰宅は夜7時から8時頃で、その後宿題や勉強をしてから寝るといって、けっこう体力のいる毎日を楽しんで過ごしていました。

私はもともと穏やかな性格で、あまりイライラすることや怒ることがなく、4歳下の弟にも優しい姉ととらえられていたようです。

3 ワクチン接種時の状況

(1) ワクチン接種のきっかけ

私の通っている学校は私立の中高一貫の女子校です。入学した当初、学校の保健部から子宮頸がんワクチンを受けるように勧める手紙をもらいました。入学後最初の懇談会に母が出席したところ、製薬企業が作っているワクチンのパンフレットが配られました。学校が勧めているし、公費助成がされるくらいお薦めのワクチンなのだから、受けなくてはいけないものなんだと受け止めました。パンフレットにはワクチンの効果の説明はありましたが、副反応の説明は、書いてありませんでした。

9月に、母が保護者どうしの会話の中で、ワクチンの話題になり、公費助成を受けるためには9月までに第1回目の接種を受けなければいけないと思いだして、9月中にということで、自宅の近くのAクリニックに、接種をしに行きました。

(2) 接種時の状況

私は、平成23年9月15日(当時12歳)、同年10月18日(当時12歳)、平成24年3月17日(当時13歳)の3回、サーバリックスを接種しました。3回ともAクリニックで受けました。祖母と一緒にいき、クリニックで予診票をもらって記載し

ました。接種前に、医師から特別な説明はありませんでした。人によっては打ったところが痛くなって腫れると言われましたが、既に周りの友達も受けていて、痛いと聞いていたので、特別なこととは思いませんでした。

接種後1、2週間くらいは、打ったところが腫れ、痛くて制服が着られず、注射を打った方の腕にかばんを提げられなかったり、腕が上がらなくて電車のつり革を持てなかったりしました。また、夜寝ているときも、打った方の腕が痛くて、そちらを下にして寝ることができませんでした。これらは、3回とも、同じような状況でした。

4 最初に気づいた体の異常、それからの症状・受診の経過

(1) 最初に気づいた体の異常

3回目接種の2、3週間後、関西へお墓参りに行ったとき、いつもは楽しい新幹線の旅行なのに、体がだるくて、「行きたくない」「何で今行かないと行けないの?」と言いました。母は、今思うとこのときから何かおかしかったと言っています。

新幹線の中だけでなく、短時間の在来線でも、座ると寝ているような状況でした。寝たいわけではないのに、気づくと寝てしまっていました。短時間でも寝てしまうので、家族に驚かれました。そのときは、とにかくだるくて、放っておいてほしい、関わってもらいたくないという気持ちでした。

(2) 中学2年（平成24年）の4月

新学期になる頃、朝起きるのが辛く、具合が悪くて、学校へ行きたくても体がついていかない状態になりました。頭が痛くなり、首や肩がパンパンに腫れ、肩こりの酷いものといった感じでガチガチで、ひどく痛みました。母が首や肩を触ろうとするのですが、痛くてたまらず、触れられそうになると逃げてしまうくらいでした。手足に力が入らず、手足の震えもありました。

地元の総合病院（B病院）の小児科で、血液検査やCTなどを受けましたが、異常はないとのことでした。それで、「異常がないなら学校へ行かないと」と、母やみんなに怒られて、「何でこんなに具合が悪いのに、学校へ行かせようとするの?」と辛く思いました。母は、精神力がないのだろうか、でもそんな子じゃないのにおかしいなと思っていたようです。

中2の4月は全く登校できなくて、5月から何とか行くようになりました。体調が良くなったわけではありませんでしたが、家にいると怒られるから無理して行っているという感じでした。

(3) 中学2年（平成24年）5月からずっと異常が続く

体の不調はずっと続いていました。自宅のそばの祖母の家にいるときに、全身痙攣が起こり、祖母が仕事上の母に連絡し、母が駆けつけると、痙攣は止まっていたということも何度かありました。痙攣は5分くらいは続くのですが、意識はありました。

はじめはなかった関節痛も出始め、生理痛もひどくなりました。子宮を絞られているような痛みで、生理前のイライラも生じるようになりました。生理不順もありました。

目の玉を動かしても頭の中に激痛が走るほどの頭痛も多く、頭痛があるときは耳鳴りもひどく、光や音も気になります。

学校へ登校しても、人に話しかけられるのも嫌で、人付き合いも悪くなっていたと思います。人と話していても上の空というか、友達の話をちゃんと聞いているつもりなのに、「今聞いてなかったでしょ?」と言われることもありました。

あまり怒らない性格なのに、なぜかいつもイライラしていました。登下校の電車の中ではすぐ寝てしまい、大好きだった本も読めませんでした。気力が湧いてこないというのもあって、中だるみの「中2病」なんだなと思っていました。

学校へ行けないときは、学校へ行きたいのに行けなくて涙が止まらないときもありました。

(4) 中学3年（平成25年）－秋頃から殆ど登校できなくなる

中学2年の3月下旬からは、過呼吸症状が起こるようになりました。動悸、痙攣など、身体の不調はますます悪化していました。動悸がするようになったのは、いつ頃からはっきり覚えていませんが、過呼吸と同じ頃だったかもしれません。

中学3年になり、人混みに耐えきれなくなり、混んでいる時間を避けて遅刻や早退をさせてもらえるように、学校に相談しました。そのような許可は、診断書がなければできないと言われて、C大学病院心療内科に行きました。4ヶ月間、計5回くらい通いました。睡眠障害、パニック障害と診断され、薬（セディール錠、ジプレキサ錠、ドグマチール錠）を処方されました。眠くなる作用があると言われていた薬の作用が強くて、駅のホームで眠り込んでしまったりするので、量を4分の1に減らして飲んでいました。一日中意識がもうろうとしていましたが、それは薬のせいと思っていました。

心療内科で診断書をもらったので、学校からは遅刻を許可されました。でも登校しても、クラスに行けず、保健室登校をしていました。音が騒がしくて辛く感じて、人の中にいることは無理でした。

中学3年の秋に、母に「最近おかしいんだよね。忘れちゃうんだ」と話しました。なんだか頭がぼーっとしたり、記憶力が落ちて、朝何を食べたのか、昨日何をしたのかなどが思い出せないようになっていました。

ほかにも、それまでは問題のなかった二桁の計算がぱっと出てこなくなったり、本が読めなくなってきたりしました。読んでも頭に入らない上に、途中で止めてもう1回読み始めると、前の内容を忘れてしまっていて、思い出せないのです。それで大好きだった本が読めなくなりました。これは、今まで一番辛いことの一つです。

中3の秋頃からは、ほとんど学校に行けなくなりました。少しでも外に出るようなという意味もあって、祖母が駅前の整骨院のマッサージに毎日連れて行ってくれました。ただ、ほとんど効果は感じませんでした。

視力も落ちて、中3で眼鏡を作りました。中2の時に視力が2.0あったのに、中3の時には0.4くらいに下がっていました。光がまぶしくて、外出するときにはサングラスが欠かせませんでした。

足がむずむずする感じや関節痛もあり、足に力が入らず歩いていても足が地に着く感覚がありません。痛む場所は時によって移動し、太腿の表面だったり側面だったりします。

手は握力がなくなり、一桁台になりました。よく物を取り落としますし、ペットボトルのふたが開けられなくなりました。感覚も鈍くなり、手に熱い物を持っても、すぐに熱いと感じられず、しばらくして「あ！いけない！」と気づいたりします。

そのほかに、ものを食べると胸がむかむかして気持ちが悪くなる症状があります。「食べなければよかった」と後悔するのです。

中学3年の秋頃には、特に食べる量は増えていないのに、急に体重が増加したことがあります。5キロくらいは増加したと思います。

(5) 子宮頸がんワクチンとの関連に気づく

中学3年、平成25年の9月頃、祖母がテレビを見ていて、子宮頸がんワクチンの被害を知り、「似ている症状の子がテレビに出ている。これじゃない？」と知らせてくれました。祖母が被害者連絡会に電話して、ワクチン接種との関連性に気づきました。

5 厚労省指定病院での対応

そのすぐ後、厚労省の指定病院が発表されたので、母が電話をかけて、いちばん早く予約の取れた、D大学病院へ予約を入れて、11月に受診しました。

S先生は、話はよく聞いてくれましたが、検査をしたり治療法を調べたりはしませんでした。先生は、「痛いつて思うから痛い。」、「痛みを我慢して体を動かすことによって、いつしか痛みよりやれることが増えていくんだよ。」、「昨日よりも今日、今日よりも明日とどんどん目標を課して、超えていって下さい。頑張ってください。」等と言うだけでした。

母が「こんなに痛いというのだから、どこかおかしいですよ。」と聞いても、「いえいえ。ワクチンとの因果関係はわかりませんから。」と言い、母が「厚労省の指定病院に選ばれていますよね、だから、何するのか対処の仕方とかガイドラインとかないのですか。」と聞くと、「一応ありますよ。」と言うだけで、「今聞き取った内容は報告しておきます。また様子を見せてください。次の予約はいつにしますか？」と言いました。

後で母に聞いたところによれば、S先生が「お嬢さんだけに聞きます。」と言って、私だけ診察室に残って話をし、次に母と入れ替わったとき、S先生は「学校に行きたくない理由はほかにあるみたいなんです。お嬢さんに『もしこの痛みがなくなったら何したい？』と聞いたら、『学校とか友達と遊んだりとか』、と言った。学校『とか』って言ったんです。普通は、学校『に』行きたいって言うんですよ。『とか』ってことは、ほかに何かあるんです。」と言ったそうです。私は、学校にも行きたいし友達とも会いたいし、と話したのに、学校に行きたくない気持ちのせいでこのような体の症状が出ているみたいな決めつけ方をされて、とても不愉快でした。また、「お母さんの思いがお嬢さんに影響しているんです。」とも言われたそうです。

一応、次の診察の予約は入れましたが、こんなふうに医療機関が情報を集めているだけで、しかも精神的なものだと決めつけて、私にとっては学校を休んで無理して行っても何の意味もないので、両親と相談して、次の診察の予約は取り消しました。D大学病院で大量に処方された痛み止めのカロナールは、全く効きませんでした。

患者は、体が痛くて具合が悪くて、治してもらいたくて病院に行くのに、その期待は全く裏切られました。こちらから「ワクチンの関係ではないか」と言わなければ、先生の対応は違ったのかな、と思います。

6 中学3年秋（平成25年）から今年（平成26年）の状況

(1) 国立精神・神経医療研究センター受診

D病院では、ワクチン関連の症状という診断書を書いてもらえなかったもので、翌月、個人的な紹介で国立精神・神経医療研究センターに受診しました。

先生からは「ワクチンが原因だとは特定できない。」と言われましたが、「ワクチン後の体調異変」という診断書を書いてもらいました。

D病院へは、診断書をもらいにしか受診していません。その後は通院していません。

(2) 今年に入ってから車椅子を使うようになる・現在の生活

中3（平成25年）の秋から、足など関節の痛みはありましたが、今年（平成26年）1月、足に力が入らなくなり、杖を買ってもらいました。1、2回、学校へ杖について行ったのですが、手が痛くなってしまって無理なので、車椅子を買って欲しいとお願いしました。最初は2月に簡単な手動の車椅子を買ってもらいましたが、自分では力がなくて漕げないので、何回か家族に付き添ってもらって、電車に乗って登校したこともありました。

中学は何とか卒業したものの、ほとんど学校に行けず、これ以上電車通学は難しいので、高校の入学式の前日に電動車椅子を借り、さらに両親が学校のすぐそばにマンションを借りてくれました。家財道具一式を揃え、お金がかかりました。

5月から、平日は、私と父がマンションで生活し、私は電動車椅子で通学し始めました。できるだけ学校には行きたいので、体の調子次第で、行けるときは2時限目からでも、3時限目からでも登校しています。

電動車椅子の費用は、障害者手帳を申請し、認定があれば補助が出ると聞きましたが、障害等級5級だったので、何も補助はありませんでした。レンタル費用は月に2万円以上かかっているそうです。

(3) てんかんセンターでの入院治療

被害者連絡会の掲示板で、炎症を抑える点滴治療のことを知って、今年の3月、静岡のてんかんセンターで検査入院1週間、卒業式を挟んで、また点滴治療に1週間入院しました。検査入院では、血液検査、髄液検査、脳波検査、心理検査、MRI、スペクト、記憶検査等を受けました。後半の1週間の入院中に、これらの検査結果が出て、「子宮頸がんワクチン接種後高次脳機能障害」という診断を受けました。

しかし、ステロイドパルス治療を受け始めて、3日目まではよかったです。4日目から顔に湿疹がものすごく出て、顔がりんご病のように赤くなり、痛みが今までで最高になりました。洋服が接触しているところがすべて痛い、椅子に座っていると座面に接しているところが痛いなど、痛みがものすごく出てしまったので、もともと先生はステロイドパルスを2クールか3クールやりたいと言っていましたが、1クールで中止してもらいました。期待していたので、効果が出ず残念に思いました。

入院中は、母が仕事を休んで、駅前のホテルに泊まり込んで付き添ってくれました。てんかんセンターでの治療にも、かなりお金がかかったそうです。

(4) 現在の治療、生活

ステロイドパルス治療は止めましたが、その後も1回てんかんセンターに通院し、そちらの先生に、「経験的に効くことがあるのでオノン服用してみないか」と言われ、飲んでます。ほかにはビタミンB、Cのサプリメントを飲んでます。

7 ワクチンに対する思い

いろんな意見があり、どれが正しいのか言えないし、自分でもはっきりとはわかりませんが、こうして私がこういう体になったという事実はあるし、身近な同じ学校の先輩も同じようにワクチンのあとに辛い症状に苦しんでいます。じわじわ被害者の数は増えているし、こういう事実があるのを厚労省や医師が認めないのは、どうなのかなと思います。

世間では、なかなかワクチンの影響での症状とは信じてもらえず、学校では少しずつ理解してもらっていますが、私は特別扱いをしてほしいわけではない、なるべくみんなと一緒にしたいと思うけれど、みんなと同じにできないことも少なからずあって、そういうことを正しくわかってもらうには、広くみんなにワクチンの被害を知ってもらうことが必要だと思いますし、厚生労働省が副反応被害をきちんと認めてくれれば、周りの人々も納得するだろうと思います。